

2015年2月27日

報道関係者各位

野村不動産株式会社

～コージェネレーションシステムの採用等により、高いBCP性能を実現～ みなとみらいエリア最大級『横浜野村ビル』着工

野村不動産株式会社(本社:東京都新宿区/取締役社長:中井 加明三)は、みなとみらい21地区にて準備を進めてまいりました「横浜野村ビル」が、3月2日に着工を迎える運びとなりましたのでお知らせいたします。なお、本ビルのオフィスフロアには株式会社野村総合研究所が入居を予定しております。

みなとみらい21地区は、神奈川県ならびに横浜市の企業誘致制度を活用した大企業の本社移転や外資系企業の拠点進出が相次いでおり、商業施設・オフィスビルなどの開発が進み、複合的な発展を遂げているエリアです。

本プロジェクトは、基準階面積1,200坪を超えるみなとみらいエリア最大規模クラスのオフィスビルであり、中圧ガスを利用したコージェネレーションシステム[※]とデュアル燃料式非常用発電機[※]を採用した高いBCP性能と環境負荷の低い機器を導入する事により、企業の事業継続や環境負荷低減に配慮し、みなとみらい21地区の更なる発展に貢献いたします。



【横浜野村ビル外観】

※コージェネレーションシステム

ガス発電時に発生した廃熱を、ビル内の空調熱源に活用するシステムです。省エネルギー効率に優れ、停電時でも一部の空調機能が稼働致します。

※デュアル燃料式非常用発電機

中圧ガスとオイルによる発電が可能な発電機です。通常の発電機に比べ、災害時の信頼性が高いと評価されております。

＜横浜野村ビルの特徴＞

- みなとみらいエリア最大クラスとなる基準階貸室面積約 1,200 坪を確保し、効率の良いオフィス空間を確保しました。
- 中間免震構造の採用、中圧ガスを利用したデュアル燃料式非常用発電機とコージェネレーションシステムを採用し、BCP 性能を強化します。
- みなとみらいエリアの街並みに配慮した縦基調の外観デザインを構成する自然換気フィンを採用し、外気を直接取り入れ可能とする事で、中間期の空調負荷の低減や停電時の事業継続に配慮した設計としました。
- 雨水利用システムやエネルギーの見える化システムを採用し CASBEE S ランクの取得を目指して環境性能を強化します。



所在地	神奈川県横浜市西区みなとみらい4丁目4番11
交通	みなとみらい線「新高島」駅徒歩4分、「みなとみらい」駅徒歩6分、JR線他「横浜」駅徒歩11分
敷地面積	8,962.40 m ² (2,711.13 坪)
延床面積	81,656 m ² (24,701 坪)
構造・規模	鉄骨造(免震構造)、地上17階
駐車台数	273台
着工	平成27年3月2日(予定)
竣工予定	平成29年1月末(予定)
設計監理	清水建設株式会社一級建築士事務所
施工	清水建設株式会社

■ 本件に関するお問合せ窓口 ■

野村不動産株式会社 広報部 (大西・阿部)
 TEL03-3348-7805
 FAX03-3343-0445
 URL: <http://www.nomura-re.co.jp/>